

(別表3-1)モニタリング調査における検出状況(水質・底質)

物質 調査 番号	調査対象物質	水質(pg/L)		底質(pg/g-dry)	
		範囲 検出頻度	平均値	範囲 検出頻度	平均値
[1]	総 PCB	nd~10,000 (46/47)	90	21~520,000 (60/60)	4,900
[2]	HCB	3~52 (47/47)	7	1.9~8,000 (60/60)	52
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	nd~3,100 (45/47)	230	tr(5)~300 (60/60)	38
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	210~34,000 (47/47)	980	nd~220 (59/60)	21
[17]	ペンタクロロベンゼン				
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン				
[23]	短鎖塩素化パラフィン類				
	[23-1] 塩素化デカン類				
	[23-2] 塩素化ウンデカン類				
	[23-3] 塩素化ドデカン類				
	[23-4] 塩素化トリデカン類				
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)	nd~2,300 (38/47)	140	nd~18 (15/60)	nd
[26]	メトキシクロル	nd (0/47)	nd	nd (0/60)	nd
[27]	デクロランプラス類				
	[27-1] Anti-デクロランプラス	nd~4,400 (44/47)	7.2	nd~5,800 (56/60)	170
	[27-2] Syn-デクロランプラス	nd~11,000 (31/47)	3.4	tr(0.6)~2,100 (60/60)	64
[28]	UV-328	nd~120 (28/47)	tr(30)	tr(14)~50,000 (60/60)	1,200

(注 1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未満) は検出下限値の1/2として算出した。

(注 2) tr(X)は、X の値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(注 3) □は調査対象外であることを意味する。

(別表3-2)モニタリング調査における検出状況(生物・大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物(pg/g-wet)						大気(pg/m <sup>3</sup> )	
		貝類		魚類		鳥類		範囲 (検出頻度)	平均値
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値		
[1]	総 PCB	170～6,100 (3/3)	910	1,000～ 130,000 (16/16)	8,100	46,000～ 910,000 (2/2)	200,000	7.7～170 (35/35)	44
[2]	HCB	nd～20 (2/3)	3.4	6.7～580 (16/16)	64	3,000～4,400 (2/2)	3,600	67～120 (35/35)	96
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	nd～120 (2/3)	11	15～11,000 (16/16)	300	1,200～36,000 (2/2)	6,600	1.1～7.1 (35/35)	3.5
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	9～23 (3/3)	14	tr(3)～28 (16/16)	8	100～930 (2/2)	300	3.5～31 (35/35)	8.0
[17]	ペンタクロロベンゼン	3.2～6.5 (3/3)	4.6	1.0～58 (16/16)	13	280～520 (2/2)	380	37～87 (35/35)	55
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン							1,200～3,500 (35/35)	2,300
短鎖塩素化パラフィン類									
[23]	[23-1] 塩素化デカン類	nd～tr(280) (1/3)	nd	nd～tr(290) (2/16)	nd	nd～tr(200) (1/2)	nd	tr(50)～770 (35/35)	270
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	tr(330)～ tr(490) (3/3)	tr(420)	nd～tr(550) (3/16)	nd	tr(320)～ tr(590) (2/2)	tr(430)	nd～4,300 (26/35)	tr(300)
	[23-3] 塩素化ドデカン類	nd～tr(540) (2/3)	tr(320)	nd～tr(510) (5/16)	nd	tr(360)～ tr(660) (2/2)	tr(490)	nd～910 (24/35)	tr(170)
	[23-4] 塩素化トリデカン類	nd～tr(640) (2/3)	tr(390)	nd～tr(570) (7/16)	nd	tr(540)～ 1,100 (2/2)	tr(770)	tr(100)～640 (35/35)	160
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)	nd (0/3)	nd	nd～1,900 (9/16)	tr(5)	94～180 (2/2)	130	0.7～6.1 (35/35)	2.4
[26]	メトキシクロロ	nd (0/3)	nd	nd (0/16)	nd	nd (0/2)	nd		
デクロランプラス類									
[27]	[27-1] Anti-デクロランプラス	nd～5.4 (1/3)	tr(1.0)	nd～51 (11/16)	2.2	16～160 (2/2)	51		
	[27-2] Syrr-デクロランプラス	nd～tr(1.1) (1/3)	nd	nd～29 (11/16)	1.5	7.3～100 (2/2)	27		
[28]	UV-328	31～240 (3/3)	79	tr(17)～900 (16/16)	100	36～230 (2/2)	91		

(注 1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未満) は検出下限値の1/2として算出した。

(注 2) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(注 3) ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン以外の大気試料の採取は、調査地点によってハイボリュームエアサンプラー又はミドルボリュームエアサンプラーのいずれかで行っている。同一地点・同一時刻にこの2種類のサンプラーで採取した試料の濃度を比較したところ、ミドルボリュームエアサンプラーで採取された試料の濃度が、ハイボリュームエアサンプラーで採取された試料の濃度に対してペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)は2.5倍前後、ペルフルオロオクタン酸(PFOA)は1.5倍前後、ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)は3.5倍前後であった。この原因として、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)、ペルフルオロオクタン酸(PFOA)及びペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)等とともに採取されたそれらの前駆物質の一部が試料採取中にペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)、ペルフルオロオクタン酸(PFOA)及びペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)へと変化し、試料採取時間が長いミドルボリュームエアサンプラーでより多くの前駆物質が変化したことが想定されるが、科学的な根拠をもって究明するには至っていない。

(注 4) ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンの大気については、ローボリュームエアサンプラーで試料を採取しており、3検体/地点の測定を行っている。範囲は全ての検体における最小値から最大値の範囲で示し、検出頻度は全測定地点に対して検出のあった地点数で示した。

(注 5) 短鎖塩素化パラフィン類のうち、生物においては塩素数が5から9までのものを測定の対象とし、大気において塩素は塩素数が4から8までのものを測定の対象とした。

また、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。

(注 6) ■は調査対象外であることを意味する。